

Testing hearing

Claims of corresponding document: **US5546956**

I claim:

1. Apparatus for testing hearing, comprising a sound source for applying a sound to a subject's ear, and a sound detector for detecting the sound returned from the subject's inner ear in response to said sound, characterised in that said sound source produces a sequence of sounds constituting a maximum length sequence (MLS), a variant of such a sequence or a variant of a similar sequence.
2. Apparatus according to claim 1, wherein the sequence is a Legendre sequence, an M-pulse sequence or a De Bruijn sequence.
3. A method of testing hearing, wherein sound is applied to a subject's ear and the sound reflected from the subject's inner ear is detected, characterised in that the sound sequence constitutes a maximum length sequence (MLS), a variant of such a sequence or a variant of a similar sequence.
4. A method according to claim 3, wherein the sequence is a Legendre sequence, an M-pulse sequence or a De Bruijn sequence.
5. A method according to claim 3, wherein two sequences are used simultaneously.
6. A method according to claim 3, wherein two ears are tested simultaneously.
7. Apparatus for testing, hearing, comprising a sound source for applying to a subject's ear a sequence constituting a maximum length sequence (MLS), a variant of such a sequence or a variant of a similar sequence, a sound detector for detecting the sound responses returned from the subject's inner ear, the sequence of sounds being applied at a rate between sounds which is less than the durations of the sound responses, whereby the output of the detector is a waveform containing but not resembling the sequence of sound responses produced by the applied sequence of sounds, and an electronic means for recovering the sequence of sound responses from the waveform output from the detector.
8. Apparatus according to claim 7, wherein the electronic means acts to deconvolute the waveform output from the detector.
9. Apparatus according to claim 7, wherein the rate at which the sequence of sounds is applied to the subject's ear is greater than 50 sounds per second.
10. Apparatus according to claim 9, in which the rate is at least 500 sounds per second.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 表 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公表番号

特表平7-505306

第1部門第2区分

(43) 公表日 平成7年(1995)6月15日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 B 5/12

発明記号

庁内整理番号

F I

8825-4C

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平5-517211
 (86) (22) 出願日 平成5年(1993)3月29日
 (85) 翻訳文提出日 平成6年(1994)10月3日
 (86) 国際出願番号 P C T / G B 9 3 / 0 0 6 3 9
 (87) 国際公開番号 W O 9 3 / 1 9 6 7 0
 (87) 国際公開日 平成5年(1993)10月14日
 (31) 優先権主張番号 9 2 0 7 4 1 2 . 9
 (32) 優先日 1992年4月4日
 (33) 優先権主張国 イギリス (GB)
 (31) 優先権主張番号 9 2 1 5 3 7 8 . 6
 (32) 優先日 1992年7月20日
 (33) 優先権主張国 イギリス (GB)

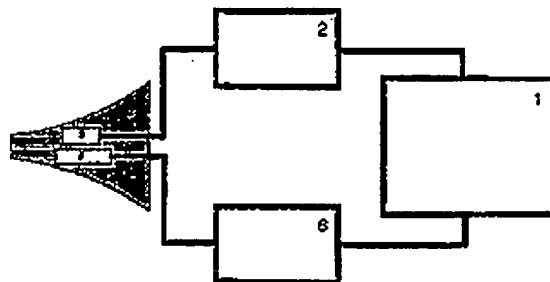
(71) 出願人 メディカル・リサーチ・カウンシル
 イギリス、ダブリュ・1・エヌ 4・エ
 イ・エル ロンドン、パーク・クレセン
 ト、20
 (72) 発明者 ソーントン、アーサー・ロジャー・デイビ
 ッド
 イギリス、エス・02 8・ビー・ティー
 サウスアンブトン、ディーゴン・ロード、
 103
 (74) 代理人 弁理士 深見 久郎 (外3名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 聴力検査

(57) 【要約】

聴覚を検査するための装置は、対象者の耳に音を与
 えるための音源(3)、および音に反応して対象者の内耳か
 ら戻る音を検出するための音検出器(5)を含む。アナ
 ライザ(1)に接続された刺激発生装置(2)によって
 駆動される音源(3)は最大長系列符号(MLS)を構
 成する音の系列符号を生成して、誘発聴覚放射を記録す
 る。



特表平7-505306 (2)

規 細 章

請求の範囲

1. 対象者の耳に音を与えるための音源、および前記音に
応答して対象者の内耳から戻る音を検出するための音検出
器を含む聴覚を検査するための装置であって、前記音源は
最大長系列符号(MLS)、そのような系列符号の異形、
または類似の系列符号の異形を生成する音の系列符号を生
成することを特徴とする、装置。
2. 系列符号はルジャンドル系列符号、M-パルス系列符
号、またはデブリュイン系列符号である、請求項1に記載
の装置。
3. 音が対象者の耳に与えられ、対象者の内耳から反射し
た音が検出される、聴覚を検査するための方法であって、
音の系列符号は最大長系列符号(MLS)、そのような系
列符号の異形、または類似の系列符号の異形を生成する、
方法。
4. 系列符号はルジャンドル系列符号、M-パルス系列符
号、またはデブリュイン系列符号である、請求項3に記載
の方法。
5. 2つの系列符号が同時に使用される、請求項3または4
に記載の方法。
6. 2つの耳が同時に検査される、請求項3、4または5
に記載の方法。

る異形はルジャンドル(Legendre)系列符号、M-パルス
系列符号およびデブリュイン(De Bruijn)系列符号である。

この発明の別の局面に従って、音が対象者の耳に与えら
れ、対象者の内耳から反射する音が検出される、聴覚を検
査するための方法が提供され、音の系列符号は最大長系
列符号(MLS)、そのような系列符号の異形、または類似
の系列符号の異形を生成することを特徴とする。この発明
はこのように誘発聴覚放射(Evoked Otoacoustic Emissi
on)(EOAE)を記録するために最大長系列符号(または
類似の系列符号)を使用することにある。この発明は5
0 Hzより高い周波数の刺激を使用する。

2つの系列符号を同時に使用することができ、2つの耳
を同時に検査することができる。

EOAEは、入力刺激に responding 自動聴中の排毛細胞に
よって生成され、中耳腔を通して外耳道へ伝えられる聴
覚信号であり、そこでこれらの信号はマイクロホンを使用
して記録可能である。EOAEは指紋のようであり、異な
った耳および個人の間では著しく変わるが、一個人では著
常に安定している。

最大長系列符号(MLS)は厳しく規定された数学特性
を有する疑似ランダムバイナリ系列符号である。MLSは
周期 p の周期性の疑似ランダムバイナリ(またはマルチレ
ベル系列符号) $x(n)$ であり、

名称：聴力検査

発明の分野

この発明は聴力を検査するための装置および方法に関す
る。

発明の背景

20010526は対象者の外耳道に挿入するための
聴覚プローブを含む聴力検査装置を開示している。こ
のプローブは音を耳道に伝え、伝えられた音に responding 内
耳から戻る音に responding するための電気聴覚トランスジュー
サを含む。このトランスジューサはより高い周波数ではエ
コーは従来のパルスと異なるので、約50 Hzの最大音圧
増減を有するとされるパルス発生器によって付勢され
る。全帯を通して、この先行の特許明細書は電子タイミ
ングゲートによってエコーを抽出することに関する。こ
の量を画定し、かつタイミングゲートによってエコーを抽
出する必要性により不利な点が生じ、この発明はこの不利
な点を克服しようとするものである。

発明の開示

この発明の1つの局面に従って、聴覚を検査するための
装置は対象者の耳に音を与えるための音源と、前記音に
応答して対象者の内耳から戻る音を検出するための音検出器
とを含み、前記音源は最大長系列符号(MLS)、そのよ
うな系列符号の異形、または類似の系列符号の異形を生成
する音の系列符号を生成することを特徴とする。考えられ

という特徴を有し、 n および b は定数である。言い換えれ
ば、この系列符号の自己相関係数は2次元である。最大長系
列符号(PN系列符号およびm-系列符号とも呼ばれる)
ならびにルジャンドル系列符号を含むこのような系列符号
を生成するために、シフトレジスタなどの様々な技術が使
用され得る。

これらの系列符号に関する本発明の発明者はレーダの分野で
行なわれていたが、それ以来電気聴覚放射の記録に適用さ
れてきた(アイシホルト(Eysbaldt)、Uおよびシュレイ
ナー(Schreiner)、Chr., 1982)。

この発明によりこの技術を経験聴覚放射を記録するた
めに使用することができる。

MLSを興味あるものにし、かつ適用できるものにする
特性は、たとえば20 msの持続期間の応答を記録するた
めに、この応答を得るために使用される刺激間の時間を応
答自体よりかなり短くできることである。したがって、こ
の発明によって、毎秒50クリックより少ない速度で刺激
を与えるかわりに、毎秒500クリック以上の速度で刺激
を与えることが可能である。この方法で、通常の検査時間
より大幅に少ない時間で明確な平均波形を生成する十分な
数の応答が得られる。この応答はお互いに重なり、
したがってもし通常の刺激がそのような速度で与えられ
ば、波形は重なった応答の重なり、低値のないものにな

特表平7-505306 (3)

は重畳され平均化された波形から回復することができる。

聴覚放射は耳脳幹応答と同じ方法で高速の刺激に適応しないので、この技術は特に聴覚放射に適している。このように、この技術は耳脳幹応答とともにMLSを使用する公開された作業とは本質的に異なる。

この発明技術は聴覚学および神経学の分野に適用されるが、主要な適用は新生児のスクリーニングであり、この分野では聴覚検査放射(ROR)はその主要な臨床応用を有する。この技術を使用して、わずか1秒ほどしか経かない測定で赤ちゃんの聴覚を検査することが可能である。これは手で通るプローブの可塑性および高感度を検査するための非常に速くかつ効率的なシステム、ならびにより広範の非協力的な子供たちにちよっと提示することによって使用できる測定値を得る可能性につながる。

聴覚を検査する、この聴覚の好ましい実施例となる装置について、図面を参照しながら例示によって以下に説明する。図面において、

図1は装置の概略図であり、

図2はMLS刺激系列符号の例を示し、

図3はデコンボリューションおよび回復方法を示し、

図4は好ましいMLSの波形および回復方法を示し、

図5は2つのマイクロホンを含むプローブを示し、さらに

図6は聴覚放射の例を示す。

そのような系列符号を発生する1つの方法は、その出力がシフトレジスタのエントリに置かれる2つ以上のビットに取付けられた複合的オアゲートを有するシフトレジスタを使用することによる。図2は2ⁿ-1の最大長系列符号列を生成するそのようなシステムを例示する。nはシフトレジスタのビット数である。この例では、nは4であり、したがって長さ15のMLSを有する。

耳脳幹応答および聴覚聴覚放射などの小さな振幅応答を記録する際に、この応答は一般に小さすぎて周囲のノイズおよび器具のノイズと区別できない。信号対雑音比はしたがって時間領域および周波数領域平均化を含む様々な技術によって通常向上される。要求された量だけ信号対雑音比を改良するためには、ある数の応答を平均化方法に与える必要がある。MLS技術の利点はクリック間の最小時間を測定されている応答の持続時間より大幅に短くできることである。したがって、大幅に短い時間の平均化方法に十分な数の応答が得られる。

しかしながら、クリック間の時間は応答持続時間より短いので、明らかに応答は歪みと歪なり、結果として生じる平均化された波形は真応答に似ていないものになる。従来の刺激系列符号が波場されれば、この重畳した応答の組合が最終結果となり、応答をその通常の形式で示さない。しかしながら、MLS技術を使用すれば、デコンボリューションおそれを使用して、真応答は重畳され平均化された応

図1は好ましい装置の概略図を示す。この装置はコンピュータ、マイクロプロセッサ、または平均化、デコンボリューションならびに他の分析および制御機能を実行するために使用される他の装置であってもよいアナライザを含む。アナライザは刺激発生装置2に接続され、それを制御する。刺激は耳管に合うように設計された小さなプローブ4を介して、検査の対象となる人の耳管に音波を送る小さなトランスジューサ8に送られる。中耳インピーダンス測定装置に見られるのと同じ方法で同じプローブ内に、または同じプローブに接続された状態で、耳管に記録された音を前置増幅器、フィルタおよび増幅器を含む信号処理装置9に伝える小さなマイクロホン5がある。装置9からの出力はアナライザに送られる。

刺激は結合および/または共振クリック、トーンバーストまたはノイズバーストを含む。説明を単純にするために、以下の説明すべてにおいては、一連のクリックを含む刺激がこの方式を例示するために使用される。

クリックは最大長系列符号を支配する特定の規則に従って示される。数学的には、そのようなバイナリ系列符号はしばしば2つの値-1および+1で表わされる。ここに記載される目的のために、これは以下の状態で記述されている。-1のすべての発生は+1に置換えられ、+1のすべての発生は0によって置換えられる。値1はクリックの例示を示し、値ゼロはクリック系列符号の無音間隔を示す。

音から回復できる。

そのような方法の実際的な実現の一例は以下のとおりである。刺激間の最小時間をTとし、平均化され重畳された応答をOとする。原始音(R)は以下の状態で回復される。

デジタル化された波形(O)のコピーをコンピュータバッファメモリに置き、OCとする。MLS系列符号の第1の要素がゼロ(または無音)であれば、コピー波形(OC)は反転される(または-1を掛ける)。原始音(O)を時間間隔Tに対応するサンプル数だけ左に回転させる。この回転された波形は、上に確立された規則に従って、MLSの第2の要素の値に依存して、バッファメモリのコピー(OC)に加算されるまたはそれから減算される。この方法はMLSの全長にわたって繰り返され、終了したとき、原始音Rはバッファメモリに残されることになる。この波形はスクリーン上で見ることができ、そのハードコピーが作られ、様々な光学、電磁などのコンピュータ媒体にストアされ得る。

図3はデコンボリューションまたは回復プロセスを示す。Rにおいて、刺激系列符号は1001011であり、したがって回復系列符号は1-1-1-1-1-1-1である。左半側のマトリックスは刺激系列符号プラスそれ自体の8つのコピーであり、各々は前段の系列符号に対して左に1倍回転されている。中央のマトリックスは回復系列符号であり、右半側のマトリックスは2つの前のマトリックスの積

発表平7-505306 (4)

である。右手のマトリックスのすべての要素の合計は、(MLSに4つのクリックがあるので)その振幅幅の4倍で回復された信号を与え、刺激および応答のすべての値の発生はゼロに相殺される。3日において、二極の刺激は刺激系列符号1-1-1-1-1-1-1-1によって示される。これは0のすべての発生が-1によって置換えられたことを除いては、両の系列符号(3A)と同じである。このような組合および音響クリックの系列符号は前述のように与えられる。刺激系列符号の0と-1を交換して、回復系列符号において同じことが行なわれ、それは現在10010111となっている。上述の動作が繰返されれば、同じ結果が得られる。

新しい刺激が図3Cに示される。ここでは3Bの刺激系列符号が3Aの回復系列符号と組合わされている。その結果は振幅幅の2倍の回復信号であるが、その後のすべての刺激機会位置で振幅=-1の入力結果または望ましくない成分を有する。しかしながら、すべての刺激機会位置に1つのクリックで正のクリックの系列符号が与えられれば、これが刺激の結果に相殺されたとき、振幅幅の8倍の適切に回復された信号が得られる。この技術を実現する1つの実用的な方法は、適切な数、たとえば10のMLSを合計して、要求される信号対雑音比の改善を得、この後その合計に10の正のクリック実行によって引出された応答を加えることである。この技術の利点は回復された信号が、3Aおよび

3Bに例示された方法と比較して、ほぼ同じ記録時間の間に2倍の振幅を有することである。

より根本的な真形が図4に示される。ここではMLSが発生された後、負のクリックが発生される。この後すぐに、次に1期回復された同じMLSのコピーが発生され、再びその後のクリックが発生される。この方法はMLSのすべての記録できる回数が完了するまで繰返される。負のクリックの系列符号が刺激列として使用される。これは図4の左手側のマトリックスとして示される。図3Aおよび3Cで使用されたものと同一の回復系列符号が、終わりに負のクリックを加えた状態で再び使用される。回復された信号は図3Aおよび3Bに例示された方法を使用した場合の2倍の振幅を有する。

信号対雑音比を改善するための別の手段が図5に示される。ここでは、単一のマイクロホンを使用する代わりに、2つ以上のマイクロホンのアレイが使用される。これらのマイクロホンは距離から異なる距離に配置される。マイクロホン間の距離を知ることにより、耳から来る信号の時間遅延または位相差がわかる。これにより、耳から来る信号が反対方向にいく信号に対して高められる。このように、聴覚放射は外部ノイズからあまり干渉を受けずに記録される。

図6は40クリック/秒の速度で、および100から3750クリック/秒の最大速度でこの発明のMLS技術を

使用して、従来記録された聴覚放射の例を示す。従来およびMLS記録放射は外見上非常に類似している。10人の正常の聴覚を有する対象者からのデータは、異なる刺激速度で記録されたMLS放射の相関関係は高く、非常に類似した波形を示すことを示している。表1は得られた平均相関関係を示す。

非常に速い刺激速度では、1つの刺激と次の刺激との間の回復時間が十分長くないので、刺激トランスジューサはその出力を受えなければならない。そのような場合、ブローブ内に2つのトランスジューサを置き、各トランスジューサに異なる刺激を交互に与えることができる。これにより各トランスジューサが1つのトランスジューサのみを使用する場合の少なくとも2倍の回復時間を有することが望ましい。この原理はどんな数のトランスジューサにも適用できる。

従来の記録(速度=40/秒)およびMLS記録(速度=100-3750/秒)のための格別部分に対する相関関係マトリックス。

刺激レベル: 8.0 dB

刺激速度: クリック/秒

	40	100	199	399	799	1599	3199	6399	12799	25599	51199	102399	204799	409599	819199	1638399	3276799
40	1.00	.96	.91	.85	.78	.71	.64	.57	.50	.43	.36	.30	.24	.18	.12	.06	.01
100		1.00	.92	.83	.74	.65	.56	.47	.38	.30	.22	.15	.08	.02	.01	.00	.00
199			1.00	.87	.76	.65	.54	.43	.32	.22	.13	.05	.01	.00	.00	.00	.00
399				1.00	.81	.68	.55	.42	.30	.19	.09	.03	.01	.00	.00	.00	.00
799					1.00	.73	.58	.44	.31	.19	.09	.04	.02	.01	.00	.00	.00
1599						1.00	.63	.47	.33	.20	.10	.05	.03	.01	.00	.00	.00
3199							1.00	.52	.36	.22	.11	.06	.03	.01	.00	.00	.00
6399								1.00	.41	.25	.12	.07	.04	.02	.01	.00	.00
12799									1.00	.30	.15	.08	.05	.03	.01	.00	.00
25599										1.00	.20	.10	.06	.04	.02	.01	.00
51199											1.00	.13	.07	.05	.03	.01	.00
102399												1.00	.08	.05	.03	.01	.00
204799													1.00	.05	.03	.01	.00
409599														1.00	.03	.01	.00
819199															1.00	.01	.00
1638399																1.00	.00
3276799																	1.00

刺激レベル: 7.0 dB

刺激速度: クリック/秒

	40	100	199	399	799	1599	3199	6399	12799	25599	51199	102399	204799	409599	819199	1638399	3276799
40	1.00	.98	.91	.83	.74	.65	.56	.47	.38	.30	.22	.15	.08	.02	.01	.00	.00
100		1.00	.90	.80	.69	.58	.48	.37	.27	.18	.09	.04	.02	.01	.00	.00	.00
199			1.00	.78	.66	.54	.43	.32	.22	.13	.06	.03	.01	.00	.00	.00	.00
399				1.00	.68	.55	.42	.30	.19	.09	.04	.02	.01	.00	.00	.00	.00
799					1.00	.58	.44	.31	.19	.09	.04	.02	.01	.00	.00	.00	.00
1599						1.00	.47	.33	.20	.10	.05	.03	.01	.00	.00	.00	.00
3199							1.00	.41	.25	.12	.06	.03	.01	.00	.00	.00	.00
6399								1.00	.30	.15	.07	.04	.02	.01	.00	.00	.00
12799									1.00	.20	.10	.05	.03	.01	.00	.00	.00
25599										1.00	.13	.06	.03	.01	.00	.00	.00
51199											1.00	.08	.04	.02	.01	.00	.00
102399												1.00	.05	.02	.01	.00	.00
204799													1.00	.03	.01	.00	.00
409599														1.00	.01	.00	.00
819199															1.00	.00	.00
1638399																1.00	.00
3276799																	1.00

特表平7-505306 (6)

FIGURE 1: 発明の概略図

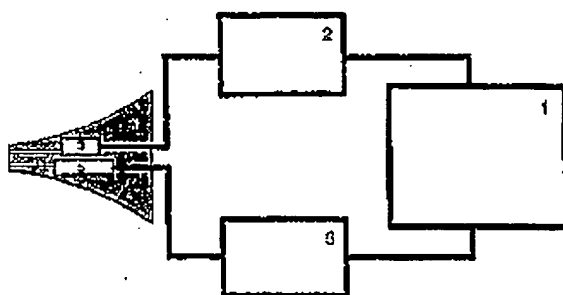


FIGURE 2: MLS推数系列符号の例

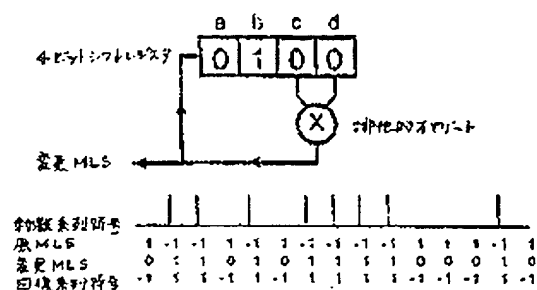


FIGURE 3: フォン・ネー・ヘン・メルツ回復方法

$$A \quad \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

和 = 4 0 0 0 0 0 0

$$B \quad \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$

和 = 4 0 0 0 0 0 0

$$C \quad \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$

和 = 7 -1 -1 -1 -1 -1 -1

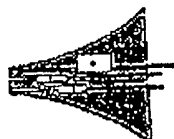
FIGURE 4: 通常のMLS および回復方法の異なり

$$\begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$

和 = 8 0 0 0 0 0 0

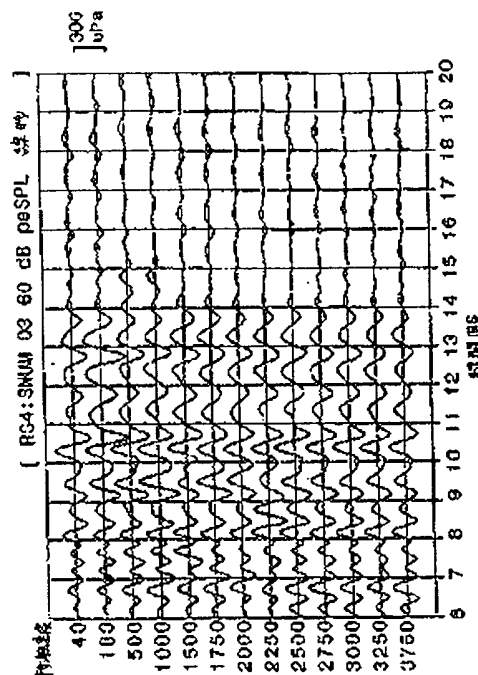
特表平7-505306 (6)

FIGURE 5: 2つのマイクロホンのアレイも有る700-7.



- 1: 第1のマイクロホン
2: 第2のマイクロホン
3: スピーカ
4: 700-7

FIGURE 6: 正常聴力の両耳対象者の平均聴覚覚醒反応の模倣がFAS ML5比較の例



国際特許条約

International Agreement No.

PCT/GB 95/00530

1. TITLE OF THE INVENTION		2. FIELD OF THE INVENTION	
1. TITLE OF THE INVENTION		2. FIELD OF THE INVENTION	
3. SUMMARY OF THE INVENTION		4. BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS	
3. SUMMARY OF THE INVENTION		4. BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS	
5. REFERENCE TO THE PRIOR ART		6. STATE OF THE ART	
5. REFERENCE TO THE PRIOR ART		6. STATE OF THE ART	
7. CLAIMS		8. ABSTRACT	
7. CLAIMS		8. ABSTRACT	
9. OTHER INFORMATION		10. OTHER INFORMATION	
9. OTHER INFORMATION		10. OTHER INFORMATION	
11. SIGNATURE		12. SIGNATURE	
11. SIGNATURE		12. SIGNATURE	

1. TITLE OF THE INVENTION		2. FIELD OF THE INVENTION	
1. TITLE OF THE INVENTION		2. FIELD OF THE INVENTION	
3. SUMMARY OF THE INVENTION		4. BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS	
3. SUMMARY OF THE INVENTION		4. BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS	
5. REFERENCE TO THE PRIOR ART		6. STATE OF THE ART	
5. REFERENCE TO THE PRIOR ART		6. STATE OF THE ART	
7. CLAIMS		8. ABSTRACT	
7. CLAIMS		8. ABSTRACT	
9. OTHER INFORMATION		10. OTHER INFORMATION	
9. OTHER INFORMATION		10. OTHER INFORMATION	
11. SIGNATURE		12. SIGNATURE	
11. SIGNATURE		12. SIGNATURE	

特表平7-505306 (7)

区 別 同 量 報 告

GB 5250899
LA 11934

This report lists the patent family members (claims) of the patent document cited in the above-mentioned international search report.
The document was published in the European Patent Office (EPO) file.
The European Patent Office is to be notified by the patent owner of any change in the status of the patent. EP/07/92

Patent document date of search report	Publication date	Patent family members	Publication date
US-A-7500114	05-09-79	AL-A- 527315	24-02-83
		AL-A- 6472579	15-08-79
		CA-A- 1146559	27-05-83
		EP-A- 0015458	17-09-80
		US-A- 4374586	22-02-83

For more details, consult the Official Journal of the European Patent Office, No. 11/87

フロントページの続き

(81) 指定国 EP(AT, BE, CH, DE,
DK, ES, FR, GB, GR, IE, IT, LU, M
C, NL, PT, SE), OA(BF, BJ, CF, CG
, CI, CM, GA, GN, ML, MR, NE, SN,
TD, TG), AT, AU, BB, BG, BR, CA,
CH, CZ, DE, DK, ES, FI, GB, HU, J
P, KP, KR, LK, LU, MG, MN, MW, NL
, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE,
SK, UA, US

特表平7-505306

【公報種別】特許法第17条第1項及び特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成12年8月15日(2000.8.15)

【公表番号】特表平7-505306

【公表日】平成7年6月15日(1995.6.15)

【年道号数】

【出願番号】特願平5-517211

【国際特許分類第7版】

A61B 5/12

【F1】

A61B 5/12

特 許 補 正 書

平成12年 5月 15日

特許庁長官様

1. 特許の概要

特願第5-517211号

2. 特許の範囲

名称 スパイラル・リテーナ・カウリング

3. 特許人

住所 〒110-0054
大田区池田南第4丁目1番10号
株式会社リテーナ
電話03-5561-1028(代)
787 08-8261-7238(直通・GII)

代表 菅野士 代表 久野



4. 特許の目的

特許(特許権)の目的

5. 特許の事項

特許の事項

6. 特許の事項

特許の事項

7. 特許の事項

特許の事項を特許の範囲に特許する。

以下

特表平7-505306

請求の範囲

1. 対象物の耳に當てるための金糸、および前記金糸に當てて対象物の耳に當る否を検出するための特徴比符号を付した検出器を具備するための装置であって、前記金糸は目元用金糸（M.E.S.）、そのような金糸が可等の材料、または前記の金糸の形状を構成する等の材料で構成されることを特徴とする、装置。
2. 金糸符号はリボンコード金糸符号、バーコード金糸符号、またはデジタルコード金糸符号である、請求項1に記載の装置。

THIS PAGE BLANK (USPTO)